



日本統計学会 会報 2024.7.31 No. 200

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任——川崎 能典(理事長) / 伴 正隆(庶務理事)
小西 葉子(広報理事) / 浦沢 聡士(広報委員)
塚本 高浩(広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|---|---|
| 1. 巻頭随筆：統計学と深層学習……………本田敏雄… 1 | 7. 第6回 細谷賞授賞について……………松田安昌… 7 |
| 2. 第29回 日本統計学会賞について……………照井伸彦… 3 | 8. 2023年7～12月統計検定 CBT 方式試験の成績優
秀者……………照井伸彦・川崎能典… 8 |
| 3. 第4回 日本統計学会中村隆英賞について
……………照井伸彦… 3 | 9. 統計検定合格者の声……………照井伸彦・川崎能典…10 |
| 4. 第20回 日本統計学会統計教育賞について
……………照井伸彦… 4 | 10. 理事会報告（2024年3月27日開催）……………13 |
| 5. 第18回 日本統計学会研究業績賞について
……………照井伸彦… 5 | 11. 理事会・委員会報告（2024年5月11日開催）…14 |
| 6. 第38回 日本統計学会小川研究奨励賞について
……………照井伸彦… 5 | 12. 社員総会報告（2024年6月1日開催）……………16 |
| | 13. 博士論文・修士論文の紹介……………23 |
| | 14. 学会事務局から……………25 |
| | 15. 投稿のお願い……………26 |

1. 統計学と深層学習

本田 敏雄（一橋大学）

私がこのまま現在の勤務先である一橋大学を最後の職場とすると仮定すれば、残り約5年半の大学での研究教育生活となります。私がもう少し早く生まれており、7、8年前に研究教育の活動を終えていたらと考えてみる場合があります。そうすると、計算機の性能や通信技術の飛躍的向上による、ビッグデータの利用および最も重要な機械学習手法である深層学習の成功を核とする第3次AIブームの成果を研究あるいは教育に取り入れることはほとんどできず、それらについてはよく知らないままだったでしょう。

第3次AIブーム自体は2006年頃から始まったと言われますが、統計学の研究あるいは教育が影響を受け始めたのはもう少し後のように思います。機械学習の主流言語であるPythonを使った統計学の本もいまでは数多くみられますが、数年

前までは統計学の本ではRが主流だったように思います。またノンパラメトリック回帰は統計学の大きなテーマの一つですが、データが豊富にあるときのノンパラメトリック回帰の道具としての深層学習の能力は、検定ができない、結果の解釈が困難である、ブラックボックスである等々の批判はあるにせよ、相当なものがあります。かなりの極論をすれば、通常の回帰関数を多層ニューラルネットに置き換えた上で損失関数と逆伝播がきちんと定式化でき、加えて十分なサンプルサイズがあれば、それで実際にうまくいくかどうか、理論的な正当化ができるかどうかは別としても、確率的勾配降下法（SGD）を使って回帰関数のとりあえずの推定を実行することはできます。

ここでもっと昔、1990年代後半までは常識であったことを線形回帰モデルの最小二乗法による

推定について考えてみます。説明変数の数は観測値の数以下でないとグラム行列が退化して回帰係数の推定は数学的に不可能であり、さらに実用上は多重共線性などの問題もあり、説明変数は観測値の数に比べて十分に少なくないと信頼できる回帰係数の推定はできないと思われていたはずで、それが Lasso の提案と21世紀になってからのその高次元問題への応用により一変しました。回帰係数の適当なスパース性の下では、真値の下でのスコア関数ベクトルのスプノルムが適宜抑えられていれば、最適化の一階条件と合わせて回帰係数の推定値は都合のよい凸集合内にあり、その凸集合内でならグラム行列の退化の問題は起きず、回帰係数に関するいわゆるオラクル不等式が証明できることがわかりました。

以上の理論的枠組みは明快であったため、グループ化も含めて、線形回帰モデルに関する結果が拡張できるところに次々と Lasso は拡張されていきました。その後 debiased Lasso が提案され、Lasso などによる変数選択によらない、高次元モデルのままの回帰係数に関する検定を行うことができるようになりました。この debiased Lasso に関する結果もやはり one-step 推定量と解釈できるように、その理論的枠組みは比較的明快であり、Lasso 同様に拡張されています。これらも1990年代後半までは考えられなかったことだと思います。また最近では、線形回帰モデルについての良性過適合に関する結果も出てきています。また高次元の中心極限定理とその分布の近似法についても重要な展開がありました。こういう統計学の大発展の中で研究生活を送り、多少なりとも研究面での貢献ができたことは望外の喜びであり、20世紀までの研究者であれば、説明変数は観測値の数に比べて十分に少なくないといけなかったと思います。

ではノンパラメトリック回帰として見た深層学習の強味は何かと言われると、多くの解説（例えば東大の鈴木大慈先生、今泉允聡先生の御著書、御講演やそのためのスライドなど）にあるように、データの潜在的構造に対する適合性、極端な

オーバーパラメトリゼーションに対する自動的ともいえる相当な頑健性、SGD による最適化の成功であると言えるのではないのでしょうか。適合性についてはある意味で潜在的構造という目標やモデルのようなものがあることもあり、かなりの理論的成果も出ているようですが、後の二つについてはまだまだ分からないことが多いように思えます。モデルはサンプルサイズの不足を補うツールであるとすれば、通常の統計学のようなパラメトリックあるいはセミパラメトリックモデルの助けがないために、やはり多くのサンプルが必要であり、それだけのサンプルは得られない場合も多く、また前述の批判もあります。

統計学では、Lasso を含む高次元統計解析については、20年弱でうまく理論的な説明をつけることに成功し、広い意味での統計学の枠組みに収めることができ、そのことで大きく発展したようにも思います。ノンパラメトリック手法として見た深層学習ではどうでしょうか。これはどうもこれまでの統計学には収まらない印象を受けており、統計学がこれまでにないさらなる飛躍的な発展と広がりを見せ、深層学習を超大標本かつ超オーバーパラメトリゼーションのノンパラメトリック回帰としていくのか、データサイエンスと言われるものの中で、サンプルサイズの大小やモデルの有無などにより統計学、機械学習とある程度別れていくのか、それはこれからの数年で方向性が見えてくるような気がします。

研究面での深層学習などへの私の貢献は今後の課題ですが、教育面では学部ゼミでも Python や深層学習を中心とした機械学習を取り入れています。もし7、8年前に大学を去っていたら、Python を覚える必要もなく、Tensorflow や PyTorch に触れることもなく、機械学習関係の教育用のテキストや新しい研究動向を気にすることもなく、考えようによってはとてもさみしいことだったと思います。私は高次元統計解析の発展を見ることができ、統計学と機械学習の今後数年の発展と関わり（おそらく将来の方向性を決めるような）も目の当たりにすることができ、これはかなり幸せこ

となのではないかとと思っています。

2. 第29回 日本統計学会賞について

照井 伸彦（日本統計学会会長）

2024年度の日本統計学会賞は、以下の方に授与することが決まりました。

受賞者氏名：瀬尾 隆氏

略歴：1989年 東京理科大学理学部応用数学科卒業，1994年 広島大学理学研究科数学専攻博士課程修了，博士（理学）取得，1994年 東京理科大学理工学部助手，1999年 東京理科大学理学部講師，2004年 東京理科大学理学部助教授，2010年 東京理科大学理学部教授，現在に至る。

授賞理由：瀬尾隆氏は、多変量解析の統計理論の分野で顕著な業績を挙げている。とくに多変量一般化 Turkey 予想の証明（3群の場合）、ある種の欠測値を持つデータセットに対する平均ベクトルに関する仮説検定方式や同時信頼領域の構成、正規母集団での成果を楕円母集団に拡張、線形および2次判別関数に関する高精度な大標本高次元近似法の開発、などが挙げられる。また、同氏は研究活動を通して大学教育や若手研究者養成にも尽力し、15名の博士および54名の修士を輩出している。とりわけ博士15名中6名が女性であり、女性研究者の養成にも貢献している。学会では運営業務の要職を多年にわたり歴任し、学会活動に多大

な貢献をしている。また瀬尾氏は、統計検定について創設直後から企画および実施運営に継続的に携わり、現在に至る統計検定の発展に寄与し、統計学の社会への普及へ尽力している。最近では、東京理科大学における統計科学研究部門長として統計科学・データサイエンス研究拠点を先導し、統計研究者の研究活動を牽引している。瀬尾氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞に相応しいものである。

主要業績：

- [1] Seo, T., Mano, S. and Fujikoshi, Y. (1994). A generalized Tukey conjecture for multiple comparisons among mean vectors, *Journal of the American Statistical Association*, 89, 676-679.
- [2] Seo, T., Srivastava, M. S. (2000). Testing equality of means and simultaneous confidence intervals in repeated measures with missing data, *Biometrical Journal*, 42, 981-993.
- [3] Seo, T., Kanda, T. and Fujikoshi, Y. (1995). The effects of nonnormality on tests for dimensionality in canonical correlation and MANOVA models, *Journal of Multivariate Analysis*, 52, 325-337.

3. 第4回 日本統計学会中村隆英賞について

照井 伸彦（日本統計学会会長）

2024年度の日本統計学会中村隆英賞は、以下の方に授与することが決まりました。

受賞者氏名：清家 篤氏

略歴：1978年慶應義塾大学経済学部卒，同大学商学部助手，助教授を経て，教授。2009年から2017

年まで慶應義塾長（慶應義塾理事長，慶應義塾大学学長）。ハーバード大学客員教授，ILO 仕事の未来世界委員会委員，社会保障制度改革国民会議会長，全国社会福祉協議会会長などを務める。現在，労働政策審議会会長，全世代型社会保障構築会議座長。2016年フランス政府よりレジオン・ド

ヌール勲章シュヴァリエを受賞。

授賞理由：清家篤氏は、高齢者の雇用、就業に関し、豊富な統計資料を用いて幅広い数多くの実証分析を行ってきた。この分野の実証分析の嚆矢として、政府ミクロ統計「全国消費実態調査」、「高齢者就業等実態調査」を用い、高齢者の労働供給関数を推計した。とくに厚生年金制度における在職老齢年金制度が所得制約線の屈折によって労働供給に与える点を理論分析し、これをノンパラメトリック分析によって検証したことは独創的研究である。またヘックマンの二段階推計法を用いて高齢者の労働供給分析を行い、年金給付額を説明変数とする労働供給関数では、推計される年金給付の係数に同時決定バイアスが発生することを見出した。これらの成果は『高齢者の労働経済学』（1992年、日本経済新聞社）、『高齢化社会の労働市場』（1993年、東洋経済新報社）、『高齢者就業の経済学』（山田篤裕氏と共著、2004年、日本経済新聞社）として出版され、高い学術的な評価を

受けている。さらに一般書においても「生涯現役社会」「雇用再生」など説得力ある議論を展開し、統計を使った実証分析の意義について国民や学生の理解を高めた。清家氏のこれらの業績は、日本統計学会中村隆英賞に相応しいものである。

主要業績：

- [1]『高齢者の労働経済学』（1992年、1993年の沖永賞）日本経済新聞社
- [2]『高齢化社会の労働市場』東洋経済新報社（1993年、1994年の第17回労働関係図書優秀賞、1994年の「東京海上各務記念財団優秀図書賞」受賞）
- [3]『生涯現役社会の条件』中公新書（1998年）
- [4]『高齢者就業の経済学』（山田篤裕氏と共著）日本経済新聞社（2004年、2005年の第48回日経・経済図書文化賞受賞）
- [5]『雇用再生』NHKブックス（2013年）
- [6]『労働経済』（風神佐知子氏と共著）東洋経済新報社（2020年）

4. 第20回 日本統計学会統計教育賞について

照井 伸彦（日本統計学会会長）

2024年度の日本統計学会統計教育賞は、以下のよう

[1] 受賞団体名：株式会社インテージホールディングス（代表：増田純也・小林春佳氏）

活動：インテージグループの大学等へのデータサイエンス教育支援活動～企業におけるデータを活用した問題解決実践知と教材の提供～

授賞理由：インテージホールディングス社は、購買データなど一般に高額なため教育や研究での利用が困難なデータを、教育利用目的として無償で多くの大学へ提供してきた。そのため、多くの大学や研究機関において、企業活動データの授業での活用や論文作成を可能としてきた。またデータを用いた現場のビジネス経験に基づき、教員だけでは指導が難しいPBL授業などに対して積極的

に社員派遣を行い、講義支援も実施している。また、初等中等教育・高等教育において活用できるカードゲーム教材の開発などを通して、データ活用の啓発活動も行っている。データサイエンス教育において産学連携は重要な課題であり、その提携先を探すに際し多くの大学は困難を抱えている中で、インテージグループの教育支援の精力的な取り組みは、産学連携でも高く評価できる。以上の活動から、インテージホールディングス社の活動は、日本統計学会統計教育賞に相応しい。

[2] 受賞者氏名：稲垣 道子氏

略歴：2007年 東京女子大学文理学部卒業、2007年 山田町立山田中学校、2010年 宮古市立河南中学校、2013年 盛岡市立厨川中学校、2019年 岩手大学教育学部附属中学校に勤務 現在に至る。

授賞理由：稲垣道子氏は中学校数学における統計教育において岩手大学と連携し、小中高の系統性を大切にしたい授業実践や教材開発を行っている。また、OECD ラーニングコンパス（数学）に示されている統計と実社会とのつながりについて、生徒が社会と数学とのつながりを実感できるような授業実践を行っている。実践については、全国算数・数学教育研究大会、統計・データサイエンス

教育の方法論ワークショップ、広島県令和4年度専門講座で発表を行ない、自らの力を高めようとするとともに、情報の発信に尽力している。生徒の統計的課題解決の指導にも積極的に携わり、授業で学んだことを発揮する場として統計グラフコンクールを位置付けている。以上から、稲垣氏は、日本統計学会統計教育賞に相応しい。

5. 第18回 日本統計学会研究業績賞について

照井 伸彦（日本統計学会会長）

2024年度の日本統計学会研究業績賞は、以下の方に授与することが決まりました。

受賞者氏名：間野 修平氏

略歴：2005年 名古屋市立大学大学院 システム自然科学研究科、准教授、2010年 統計数理研究所 数理・推論研究系、准教授、2020年 統計数理研究所 数理・推論研究系、教授、現在に至る。

授賞理由：間野修平氏は、計算代数手法による離散型分布からのダイレクトサンプリングに関する研究において多くの優れた業績を上げている。その研究の特徴は、計算代数の理論に基づくことであり、A 超幾何系とよばれる方程式系の解の満たす漸化式を利用することで、効率的なサンプリングを可能としている。これらは統計学に加えて、計算代数と代数幾何という純粋数学分野にも基盤をもつ稀有な研究者である間野氏だからこそ可能な研究といえる。サンプリングのアルゴリズム開発は、データ解析のあらゆる場面において重要なテーマであるが、近似手法でない厳密抽出を

可能とするダイレクトサンプリング手法により、MCMC 法の原理的に避けられない欠点を打破する可能性が示されたことは、実用上大きな意味を持つ。以上の間野氏の一連の業績は、日本統計学会研究業績賞に相応しいものである。

主要業績：

- [1] S. Mano. Partition structure and the A-hypergeometric distribution associated with the rational normal curve. *Electronic Journal of Statistics*, 11, 4452-4487, 2017.
- [2] S. Mano. Extreme sizes in Gibbs-type exchangeable random partitions. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, 69, 1-37, 2017.
- [3] S. Mano. Partitions, Hypergeometric Systems, and Dirichlet Process in Statistics. Springer, 2018 (ISBN: 9784431558880) .
- [4] S. Mano. A measure-on-graph-valued diffusion: A particle system with collisions and its applications. *Mathematics, Special Issue Random Combinatorial Structures*, 10 (21) 4081, 2022.

6. 第38回 日本統計学会小川研究奨励賞について

照井 伸彦（日本統計学会会長）

2024年度の日本統計学会小川研究奨励賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] **受賞者氏名：**栗栖 大輔氏

略歴：2014年 京都大学理学部理学科卒業、2016

年 東京大学大学院経済学研究科修士課程修了,
2018年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了,
同年 東京工業大学工学院経営工学系 助教,
2022年 横浜国立大学国際社会科学研究院准教授,
2023年 東京大学空間情報科学研究センター准教授,
現在に至る.

授賞論文：

[1] Kurisu, D. (2022), Nonparametric regression for locally stationary random fields under stochastic sampling design. *Bernoulli*. 28, 1250-1275.

[2] Kurisu, D. and Matsuda, Y. (2024) Local polynomial trend regression for spatial data on R^d . *Bernoulli*, in press.

[3] Kurisu, D., Kato, K. and Shao, X. (2024), Gaussian approximation and spatially dependent wild bootstrap for high-dimensional spatial data. *Journal of the American Statistical Association (Theory and Methods)*, in press.

受賞論文の評価：栗栖大輔氏は、空間データに関する研究成果を数理統計・確率論分野において国際的に評価の高い学術誌に発表している。論文 [1], [2] では既存研究の枠組みを d 次元ユークリッド空間 (R^d) 上で定義される局所定常空間データに拡張し、 R^d 上の空間データを離散観測する状況への応用研究として初めてノンパラメトリック回帰の厳密な理論解析を行なった。具体的には、論文 [1] では R^d 上の局所定常レヴィ駆動型移動平均確率場を提案して非定常・非ガウス確率場に対して回帰分析の理論が構成できることを示し、論文 [2] では回帰関数を局所多項式回帰で推定する場合の推定量の漸近分散の推定法を提案するとともに空間データに対する回帰不連続デザイン等因果推論への応用の可能性も示した。さらに論文 [3] では、 R^d 上の多変量空間データの平均ベクトルの信頼区間を構成する方法として、平均ベクトルが高次元の場合でも既存の方法より安定した結果が得られるブートストラップ法を提案し、その理論的妥当性を示した貢献は大きい。以上により、栗栖氏の研究は小川研究奨励賞の受賞に相応しいものである。

[2] **受賞者氏名：**奥野 彰文氏

略歴：2014年 大阪大学基礎工学部 卒業, 2019年 京都大学大学院情報学研究科博士後期課程 研究指導認定退学, 2020年 同 博士号取得,
(職歴) 2017年 日本学術振興会特別研究員 (DC2), 2020年 統計数理研究所 助教, 現在に至る.

授賞論文：

[1] Akifumi Okuno and Keisuke Yano (2023), A generalization gap estimation for overparameterized models via the Langevin functional variance, *Journal of Computational and Graphical Statistics*, 32 (4): 1287-1295.

[2] Akifumi Okuno and Kazuharu Harada (2024), An interpretable neural network-based non-proportional odds model for ordinal regression, *Journal of Computational and Graphical Statistics*, in press.

[3] Akifumi Okuno and Masaaki Imaizumi (2024), Minimax Analysis for Inverse Risk in Nonparametric Planer Invertible Regression, *Electronic Journal of Statistics*, 18 (1): 355-394, 2024.

受賞論文の評価：奥野彰文氏はニューラルネットワークなど表現能力の高い予測モデルを用いた統計的推定手法の開発と理論研究に携わってきた。その応用として天文学など諸科学分野との共同研究にも積極的に取り組んでいる。特に論文 [1] では特異モデルを評価できる既存の情報量規準WAIC (Watanabe, JMLR2010) がニューラルネットワークなどの過剰パラメータモデルにも適用可能かを検討し、その効率的な計算法を示している。論文 [2] ではニューラルネットワークを用いた非比例順序回帰モデルが単調性を満たすためのドメイン制約表現能力のトレードオフを示し、実データでも柔軟で妥当な解釈結果が得られている。論文 [3] では近年注目されているニューラル生成モデル等の評価を目標とし、可逆関数推定のミニマックスレートを理論的に導出している。これらの論文で提示された手法はいずれも実装が容易かつ効率的な計算が可能であり応用を見据えながら理論的な整合性も示されている点が高く評価できる。これら先駆的な成果は伝統的統計手法に新たな視

点をもたらしており、日本統計学会小川研究奨励賞に相応しい。

[3] 受賞者氏名：上原 悠慎氏

略歴：2016年 九州大学数理学府 数理学専攻博士前期課程修了，2018年度採用分 日本学術振興会特別研究員 DC2（下記就職のため辞退），2018年 統計数理研究所リスク解析戦略研究センター 特任研究員，2019年より同助教，2019年3月 博士号取得（数理学，九州大学数理学府），2020年 関西大学システム理工学部数学科助教，2023年より同准教授，現在に至る。

授賞論文：

[1] Masuda, H., Mercuri, L. and Uehara, Y. (2022). Noise inference for ergodic Lévy driven SDE. *Electronic Journal of Statistics*, 16, 2432-2474.

[2] Uehara, Y. (2023). Bootstrap method for misspecified ergodic Lévy driven stochastic differential equation models. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, 73, 535-565.

[3] Ogihara, T. and Uehara, Y. (2023). Local asymptotic mixed normality via transition density approximation and an application to ergodic jump-diffusion processes,

Bernoulli, 29, 2342-2366.

受賞論文の評価：上原悠慎氏はこれまで、高頻度観測に基づく非正規確率微分方程式モデルの統計理論構築とそれらの計算機への実装に取り組んできた。論文 [1] では、レヴィ過程で駆動される確率過程の非正規性を解析するための統計手法の開発およびそのソフトウェア実装を行い、従来の平均・分散構造の範疇を超えた分析の道を拓いた。論文 [2] では、モデルのドリフト・スケール係数が誤特定されている設定の下、ブートストラップ法に基づく正規型擬似最尤推定量の漸近分布の近似手法およびその理論的性質を導出した。得られた結果は拡散過程モデルの場合においても新しく、係数の誤特定によらず統一的に漸近分布の近似を可能とする顕著なものである。論文 [3] では、ジャンプ付き拡散過程の高頻度観測に基づく局所漸近正規性が示され、20年来の懸案であった閾値に基づく擬似最尤推定量の漸近有効性が保証された。以上のとおり、上原氏の業績は、従属性データの統計モデルの推測に新たな方向性を与えた革新的なものであり、日本統計学会小川研究奨励賞に相応しい。

7. 第6回 細谷賞授賞について

松田 安昌（東北大学大学院経済学研究科）

東北大学大学院経済学研究科では、細谷雄三名誉教授の統計学界における教育・研究への貢献を記念して、広く人文・社会科学分野における若手研究者のデータ科学研究を奨励するため、2018年に細谷賞を創設しました。2024年3月31日を期日に第6回受賞候補者の公募を行い、学外者を含む選考委員会を設け、慎重な審査・選考を行いました。ここに選考結果を報告します。なお、本賞は東北大学須永特定基金より寄付を受け日本統計学会の後援により実施しています。

第6回受賞者

星野 匡郎（早稲田大学）、柳 貴英（京都大学）
Hoshino, T. and Yanagi, T. (2024). Causal Inference with Noncompliance and Unknown Interference. *Journal of the American Statistical Association*, 1-12.

講評

星野氏と柳氏は、曝露写像と操作変数法を利用した新しい因果推論手法を開発し、その統計的性質を証明することに成功した。ネットワークデータを利用した因果推論では、人々の間に生じる波及効果（spillover effects）を要約するためのアプローチとして、曝露写像（exposure mapping）が考えら

れてきた。既存の研究では、すべての人物が介入の割当を遵守する理想的なランダム化比較実験のみが想定され、介入割当を遵守しない人物がいる場合が考慮されていなかった。両氏は、操作変数曝露写像（instrumental exposure mapping, IEM）という関数を導入し、複雑な波及効果に加えて介入割当の不遵守を許容する新たな因果分析を提案した。因果分析の実証的なニーズにこたえる重要な貢献となっており、社会科学における統計/データ科学研究の奨励を目的とする本賞にふさわしい成果である。

細谷賞選考委員会

松田安昌（選考委員長、東北大学）
大屋幸輔（大阪大学）
新谷元嗣（東京大学）
照井伸彦（東京理科大学）

星野 匡郎氏略歴

2007 早稲田大学政治経済学部卒業
2012 博士（学術、東京工業大学）
2024 早稲田大学政治経済学術院教授

柳 貴英氏略歴

2010 九州大学経済学部卒業
2015 博士（経済学、京都大学）
2024 京都大学大学院経済学研究科准教授

2024年11月に第6回授賞式および Hosoya Prize Lecture を開催する予定です。詳細は下 webpage をご確認ください。

東北大学大学院経済学研究科サービス・データ科学研究センター

<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/~DSSR/hosoyaprize.html>

8. 2023年7～12月統計検定 CBT 方式試験の成績優秀者

照井 伸彦（日本統計学会会長）
川崎 能典（日本統計学会理事長）

準1級

最優秀成績賞（S）：秋元達哉、荒井公寛、岩崎大輔、岩崎翼、上田柊介、大石圭悟、神山晃、鴨田浩和、菊池武造、木原将吾、佐藤聡、澤田航太、塩濱颯和、地引涼真、嶋章裕、下川拓己、鈴木海斗、諏訪晴哉、相馬剛太、竹田圭一郎、竹森整、田邊航輝、谷口智隆、田端田、道井和幸、遠山悠大、鳥羽駿介、豊田浩巨、中崎溪一郎、西尾遼馬、花田裕都、濱田夕介、日高逸稀、藤崎慎平、布施綾華、舟本公路、古川貴一、鋒山凌也、松井凌、村山一央、森野颯太、吉田智紀、若林建汰

優秀成績賞（A）：有光俊太郎、池田征弘、石橋一馬、市川陽大、岩崎衛、上野友裕、上原蓮、遠田敏生、遠藤優太、小笠原祐貴、小野田直記、鍛冶毅、柏山大介、桂正太郎、古塩卓也、佐久間悠斗、椎名良治、島田耕平、杉崎勇介、諏訪陸、清家大嗣、高

橋風渡、高橋泉央、高橋祐記、谷本塁、田旗栄太、田村聡真、土居龍生、仲村岳真、長谷川馨、早川和希、福島綾介、堀江広一、堀田恵介、松川恭之、松木祐磨、水野裕太、南福皇、三藤陵根、宮岡恵佑、森野友翔、安來依音、横田千聖

2級

最優秀成績賞（S）：青木優大、大西洸樹、河野悠輝、北村啓樹、後藤広樹、武田祥平、館野宏基、戸田牙希、中橋晶、羽田浩樹、林千裕、平井俊輔、平野敦也、三谷卓矢、宮岡恵佑、柳智征、渡邊大司、渡部耀介

優秀成績賞（A）：阿久津有史、浅野倫吾、足立浩基、石橋啓一、井手龍之介、今尾麻人、入谷賢佑、牛尾真樹、白井優、海上大輝、海野光洋、円田康寛、大河内悠磨、大森海生、岡村聡、小野澤竜馬、

小幡有生,小俣理奈,加藤絵美,亀尾友人,北野竜士朗,木下直紀,駒宮大介,酒井佳洋,坂田亮輔,佐久間渉,島田実歩,下村俊一,丈達美帆,白河部希,末吉健大,菅原岳,杉浦拓也,杉浦正人,杉江奈月,鈴木敦志,鈴木陸朗,高木麻希,武田晃,田中樺,寺田尚道,豊泉喜一郎,羅明振,中林亮,中前祐人,中村政美,西泰生,西原大地,橋本大地,長谷川直輝,長谷川永将,英航,林部哲,疋田一将,深海歩美,藤崎裕太,藤城直也,藤田航平,藤野淳也,藤森淳人,堀越唯斗,前田純貴,牧園孟士,松尾稔将,松苗亮汰,松葉大希,松林円花,松村洋希,三神正華,宮川雅道,宮崎新也,宮下真翔,村井幸博,村上亮介,八杉直樹,柳田歩,山田康亮,吉田竜馬,李月然,若菜理志,和田光矢,渡辺虎太郎,渡辺駿,渡邊直樹

3級

最優秀成績賞 (S) : 天野凌輔,池田礼弥,井上輝,大石孝弘,奥村幸介,尾原健太,金山風馬,郷田昌稔,兒玉剣,紺田琉太,近藤寛,近藤重一,坂井信行,阪口哲平,佐藤修平,朱瞳,進木靖文,助野巧,瀬戸颯斗,高瀬雄心,坪内幸生,中川洋平,仲本征矢,野田裕介,橋本大地,日永田侑璃,前田若菜,水上茉依,森崎博志,山田ちひろ,山村隼,吉原光一,渡邊優桜

優秀成績賞 (A) : 赤松直樹,秋元弦太,秋山謹孝,阿部建生,安倍佳孝,新井昂寿,荒井飛翼,有馬殿大空,有本勇,安澤悠夏,飯野史規,五十嵐麗美,池上理史,石谷和己,石橋龍一郎,井関純也,伊藤一樹,伊藤正敏,稲垣もえ,井上教,井上知泰,今井裕介,内田絢子,遠藤雅大,大友健一郎,大日向海斗,小川春美,大喜多悠河,小野恭史,小野瀬裕介,蔭山英樹,加藤輝莉,金井陸,亀岡渉,栢原歩磨,川端康之,菊地虎太楼,木村篤史,木村優花,熊本洋平,倉持菜々,柯智瀚,小泉篤史,河野実優,向後颯馬,小島和幸,兒玉麻未,小寺竜樹,古谷野一也,近藤保,齋藤駿典,坂本欧汰,坂本健太,櫻井信,佐々木麻衣,佐藤寛晃,佐藤優弥,清水淳,下山直弥,城倉伊美,須賀洋介,菅原伸一,須田遥介,住江香織,関口花歩,高須葉一,

滝澤毅,辰巳貴昭,田中健太,谷口美保,田本紗緒里,蔦井厚伸,津森葵,出町祐貴,外山篤史,中川湧貴,中島健吾,永島義基,中田義範,西美智佳,西沢悟,野畑知哉,野村祐一郎,橋本崇弘,畑悠斗,林翔太,早矢仕拓希,廣川剛士,福井翔太,藤井涼介,藤垣元裕,布能英樹,堀越唯斗,増井遼太,増田海斗,松岡花音,松岡泰良,松葉璃奈,松本将利,三木康太,水野拓巨,三田雄太郎,村上夏輝,森健太,森田結子,矢後佳貴,山下匠,横井愛美,横木太一,吉田和宏,吉田将基,吉村葵,渡辺博文,渡邊優太

4級

最優秀成績賞 (S) : 安部政良,梅原千枝,大久保菜々子,大塚壮寛,岡本竜輝,嶋田旬志,田島恵美,鶴島啓展,中村秀樹,平井満広,福崎里彩,松本大地,三井靖之

優秀成績賞 (A) : 麻生拓馬,熱田諒,五十嵐祐太,石川聖,石崎良平,石原敬士,伊藤誠,植松海音,上見アンディ,江原夏希,大住貴之,黄賀章太,岡崎悟士,小川勝美,小木曾裕介,奥家康平,織田秀一,小野俊太郎,甲斐智貴,金子邦秀,川合徹,川上浩史,岸本真衣,木之下友彦,桐畑岳人,工藤修二,後藤一利,小松裕,関日向子,田井徳美,大伍将史,高橋広太,武田広樹,武田仁宏,谷口厚志,天日本,中家正人,中田英臣,仁平靖之,野沢洋介,原良太,前田邦彦,松澤凱斗,村岡勇登,免田芳生,横田悠雅,若林杏果,和久康史,渡邊瞳

統計調査士

最優秀成績賞 (S) : 秋山勇氣,大塚由貴,関口卓也,西村功実香,山野井真児

優秀成績賞 (A) : 浅海佑吉,井上史嵐,今田雄暉,今福有希,王地裕介,大沢明生,大橋一真,岡本凱晴,長田良一,岸本慶太郎,木村越史,木村直裕,桐谷秀紀,後藤新一,小針憲一,小柳元,田上寿喜,土居徹也,土肥海人,中島渉,平野元稀,福田一仁,藤原一樹,堀越智視,松岡佑悟,松永知也,三浦夏乃,宮木弘,横山大輔,渡部力

専門統計調査士

最優秀成績賞 (S)：和泉利隆，井上海輝，長田良一，山本浩之，吉井元汰

優秀成績賞 (A)：栗山博雅，小林拓，近谷一真，関口卓也，田上寿喜，西紘永，西川泰良，西野裕基，福田一仁，物井友秀，山本貴之，余吾貴彦，吉井勇人

データサイエンス基礎

最優秀成績賞 (S)：石王雄大，岩本直也，小野剛志，甲斐充登，景山統，小村哲也，澤優維，田中義範，波多野貴，伴遼介，久好洋子，平沼格，藤原周平，堀川佳則，三浦宏一郎，水野祐輔

優秀成績賞 (A)：浅田純司，泉谷於外，井上聡，

岩川勇人，岡崎敏明，岡田和明，笠置晶，清水悟，清水智也，白石直輝，園田裕樹，高須豊，高橋伸司，中山幸陽，難波麻子，畑喬介，松原郁生，皆川大輔，宮崎和磨，鷺谷浩大

データサイエンス発展

最優秀成績賞 (S)：岩崎翼，指田昌樹

優秀成績賞 (A)：赤井雄太，親木翔平，定野浩平，品川彩人

データサイエンスエキスパート

最優秀成績賞 (S)：菅原拳

優秀成績賞 (A)：土肥海人，渡邊幸輝

9. 統計検定合格者の声

照井 伸彦 (日本統計学会会長)

川崎 能典 (日本統計学会理事長)

統計検定準1級

中浜 啓輔さん (三菱重工業)

統計学の全貌を知ることができる良い機会

統計検定を知ったきっかけは，会社の昇進の評価に考慮される資格一覧で，準1級以上が対象となっていました。仕事で統計学を使ったことがほとんどなかったのですが，これから使う可能性があり，いろんな分野に応用できるのではと思い受験を決意しました。CBT形式で，勉強が仕上がった段階でいつでも受験できるというのが魅力でした。

統計学実践ワークブック (公式テキスト) を購入し，ほぼこれのみを独学で最初から順番に学んでいきました。統計学を専門に学んだことがなかったもので，多くの方のコメント通り，ワークブックは非常に難解でした。統計学大百科事典 (翔泳社) を参照したり，YouTube を閲覧して基本的な部分の理解を深めていきました。YouTube はわかりやすい動画が多く，お勧めです。

平日夜と週末の勉強で，ワークブックを1周す

るのに2ヶ月半かかりました。そのあと1ヶ月半かけてさらに3周し，例題と問題を完璧に解けるようにしました。

仕上がりとして，準1級過去問集 (公式問題集) で，2015年～2021年のPBTを解きました。感覚としては，PBT過去問の「選択及び部分記述」を90分で解ければCBTに対応できます。2021年のPBTは難易度が飛び抜けて高くCBT受験直前にショックを受けましたが，2015年～2019年のPBT過去問がきちんとできていれば気にすることはないです。ただし，ワークブックの例題・問題とPBT過去問への過学習はよくないです。難しいとは思いますが，ワークブックに1行だけサラッと書いているようなところも含めて，隅々まで見ておくのがよいです。

出題範囲は膨大でしたが，勉強をしてみて，世の中，統計学で溢れていることを改めて認識しました。深掘りまではできませんでしたが，統計学の全貌を知ることができる良い機会だったと思います。一通り理解した後でワークブックを読み返

すと、この膨大な範囲をコンパクトにまとめているなど感心しました。今回学んだことをいろんな場所で活かしていきたいです。

統計検定 4 級

大伍 将史さん（弁護士法人アディーレ法律事務所）

一步一步、統計学の学習を進めたい

（1）統計検定をどこで知ったか

勤務先で所属する経営本部（業務改善室）における資格推奨制度に統計検定が含まれていたことがきっかけで知りました。

（2）統計検定を受験した動機

資格推奨制度に統計検定が含まれていたことに加え、法律事務所内の情報システム部等の他部署と一緒に業務上の協議をする際、統計学の知識が不可欠であると感じたため、統計学学習のはじめの一步として、統計検定 4 級を受験しようと思いました。

（3）受験に当たってどのような準備をしたか

『日本統計学会公式認定 統計検定 3 級・4 級公式問題集 [CBT 対応版]』を使用した問題演習を中心に学習しました。学習期間は 5 日間（1 日当たり約 2 時間）でしたが、グラフの種類やデータの分析方法など、幅広い知識を習得することができました。

（4）統計検定を受験してどのような感想を持ったか

試験時間 60 分、問題数 30 問なので、時間的に余裕があると思っていたのですが、試験では、グラフや問題文を読むのに時間がかかってしまい、試験時間ギリギリまで検討しました。今後、受験をご検討なさっている方は、問題演習のときから時間を測って問題演習を行うことをおすすめします。

（5）合格した感想／今後、他の種別の統計検定を受験するかどうか

試験結果を見るまでは不安でしたが、統計学の学習を良い形でスタートさせることができたと思います。

また、先日、統計検定 3 級も受験し、無事、合

格することができました。

統計検定を通して一步一步、統計学の学習を進めたいと思います。

統計検定 統計調査士

戸簾 隼人さん（一般社団法人インパクトラボ / 滋賀大学大学院）

信頼性の確保に有用な資格

【受験経緯】

私は勤務先において、官公庁や教育機関向けの各種調査・分析業務に従事しています。その中で、事業対象者に対する信頼性の確保のために、分析だけでなく、統計調査に関する資格の取得を検討していました。そこで調べた結果、専門統計調査士が私が担当する業務に最も適切な資格だと感じ、その第一段階である統計調査士も受験することにしました。

また、私は昨年、滋賀大学大学院データサイエンス研究科への入学試験のために、統計検定 2 級を受験し、合格しました。無事春より大学院生として研究を行う予定です。統計検定 2 級では、論理としての統計・分析に関する内容が多かったため、本試験の受験を通じて、理論だけでなく実務に関する知識を身につけたいとも考えていました。

【試験対策】

受験方法はシンプルに「日本統計学会公式認定 統計検定統計調査士対応 経済統計の実際」「日本統計学会公式認定 統計検定専門統計調査士対応 調査の実施とデータの分析」（東京図書）の二冊と過去問 3 年分を解いて、試験に挑みました。分析に関するパートについては、元々実務で経験していた知見と統計検定 2 級レベルの知識でカバーしました。

【結果】

統計調査士・専門統計調査士の双方とも合格しました。また、統計調査士については、レポート出力時には気づいていませんでしたが、優秀成績賞を頂くことができました。

【受験を行った感想、今後の受験予定】

特に統計調査士試験については、国の行う調査について深く学習することができ、これまで業務で行ってきたような調査とは違った学びを得ることができました。専門統計調査士は当初の検討通り、自身のこれまでの経験を確認する経験になったと考えています。

また、進学先においては、在学中に統計検定1級を統計数理・統計応用ともに取得することを目指して精進してまいります。

統計検定 専門統計調査士

赤松 みづきさん（独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ））

実務経験で得た知識のヌケモレや裏付けを行うために

このたびは優秀成績賞の表彰をいただき光栄に存じます。

私は市場調査会社勤務を経て現職まで、国内外でのマーケティング調査・分析に関わる実務経験を得てきました。しかしながら、現場叩き上げで得てきた知識の中には、ヌケモレや統計学的裏付けをきちんと理解できていない部分があると感じていました。そこで、体系立てて知識を補強・整理しなおす方法はないかと講座や資格を探し、専門統計調査士の受験を決めました。

専門統計調査士の資格を得るためにはまず統計調査士試験に合格する必要がある、それぞれの試験では統計検定3級・2級の内容が問われるため、実質的にはこの4つの試験に合格する力がなければなりません。統計学については公式テキストと問題集の他に、統計を扱っているビジネス書を参考にしました。挙げられている例が実務に近いので、理解が進んだように思います。（専門）統計調査士に関わる知識については公式テキストが最も頼りになりました。また、統計学の勉強に取り掛かる前に高校数学の復習をしておいたことは有用で、大学受験向けの参考書やYouTube動画が重宝しました。

今回の資格取得を通して、実務上「お約束」「丸覚え」「分析システム頼み」になってしまっ

ていたことがいかに多かったかを痛感しました。また、私の場合は公的統計と自社調査データを組み合わせる分析することが多いので、主要な公的統計のデータの性質について学べたことは大きな収穫でした。長くキャリアを積んでいると、自分が得意としてきた調査・分析手法以外にも目配りをするが必要になってきますし、若手への指導や対外的に説得力を持った説明を求められる場面も増えてきます。専門統計調査士に合格したことで、そのような場面に自信を持って臨めるようになったことが一番の達成となりました。

統計検定 データサイエンス基礎

遠藤 新一さん（アルプスアルパイン株式会社）
数値データを様々な角度から読み解き、対策を考える

昨今、ビッグデータを解析し、その結果をビジネス推進や組織の意思決定に役立てる事が重要となっている。この解析に必要となるのが「データサイエンス」であると私は考えている。「データサイエンス」を体系的に勉強したいと考えている中で、「データサイエンス基礎」を受験し、知識・知見を深めようというのが受験動機である。

本資格の出題範囲を確認すると、範囲は非常に広い。公式問題集は出版されていないので、自分で対策を考えるしかない。「統計検定2級」を既に取得していたので、その内容を復習する事を対策の1つとした。特に、検定・推定の部分に力を入れた。他の対策として、Excelでの操作練習も行った。Excelを使って統計力を図る試験として「ビジネス統計スペシャリスト」がある。この試験に関する書籍として、「Excelで学ぶビジネスデータ分析の基礎」、「Excelで学ぶ実践ビジネスデータ分析」（いずれもオデッセイコミュニケーションズ発行）がある。これらには練習問題や模擬データが多く掲載されており、Excelでの操作練習には最適である。ピボットテーブルの作成や短時間でp値を計算する訓練を行った。

実際の試験では、問題数が多く焦ってしまった。1問を全て解き終えると、平常心に戻ること

ができたので、落ち着いて受検することを薦める。CBT 試験である為、受検後に結果が直ぐに分かる。8割以上正解し、合格であった。その後、自宅に「優秀成績賞」の表彰状が送られてきた。大変光栄に思っている。

「データサイエンス」とは無縁とを感じる方もいらっしゃるかもしれないが、数値データを様々な角度から読み解き、対策を考える思考は大事である。これを身に付けることができる本資格は、「データサイエンス」を本格的に勉強する上で最適であると考え、今後は、本資格の上位資格である「データサイエンス発展」の受験にチャレンジしたい。

統計検定 データサイエンス発展

藤原 洋 さん（株式会社ハーツアンドソウル）
本当の目的はスキル習得、受からなければさらに長く学習できる

業務開発のシステムズエンジニアを40年以上経験、業務やDBや言語などを背景とした会話力による活動から脱却し、理論に裏打ちされた説得力を身に着けたいとの思いが強くなり、統計数学を基礎としたAI系への転身を目指し、本日に至る。

アルファ基や深層学習ブームを機にAIの勉強を開始、入門書の類を読み漁ったが、求めるスキルはつかないと判断、Pythonにおける機械学習や統計など、大学の教科書の学習に数年を要したが、高齢の為か最初に学習したことを失念してしまい、また最初から繰り返し。

計画通りのスキル習得に至らず気落ちしていたところで、目安、目標としての各種検定へのチャレンジを思いつく。

データサイエンス発展は、過去問や参考書が存在しておらず、シラパスの内容から、教科書が存在する下記の検定と合わせて学習することにした。

「G 検定」、「データ分析実務検定」、「データサイエンス数学素ストラテジスト」、「統計検定2級」、「Python エンジニア認定データ分析」などの教科書を入手、検定チャレンジを行った。また、教科書では不十分なものはネットに数多くあがっており、角度の異なる説明が非常に参考になった。手書きノートの他、計算の必要なものはExcelを使用してドキュメントに残した。

ただ、どなたかのサイトにも記載あったが、検定の前には電卓を購入、メモリなど駆使するようなことはせず、単純な方法で確実性を目指した。

以下、高齢者特有の問題を抱えた受検において小職の個人的取組や感想は以下の通りである。

①自分でモチベーションを高めるため、周囲には受検する、チャレンジするなど積極的に公言、退路を断った状況を作った。

②責任が伴うと気合がちがうので、機会があれば積極的に実務を引き受けた。地獄のような日々を過ごす着実にスキルアップ可能。

③習得や活動に時間を要したのは、経験という引き出しが多くなり考慮すべき事柄が多くなった為であることも少なくなかった。

④忘れてしまうことは仕方がない、本当の目的はスキル習得と考えれば、受からなければさらに長く学習できると心得た。

以上、人生100年時代にむけた年長エンジニアの参考になれば幸いです。

10. 理事会報告（2024年3月27日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2024年3月27日（水曜日）

午前9時00分～午前9時15分

場所：統計数理研究所 D404

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID: 826 4900 8423）

理事の総数 14名 出席理事の数 11名

監事の総数 3名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：照井伸彦会長，川崎能典理事長，小山慎介（庶務），伴正隆（庶務），吉田靖（会計），原尚幸（会誌編集和文），荒木由布子（国際），鎌谷研吾（国際），瀬尾隆（渉外），植木優夫（渉外），竹内光悦（教育）

（以上11名，括弧内は役割分担）

監事：樋口知之，山下智志

第1議案 常設委員会における委員の交代・追加について

川崎理事長より，資料に基づき，常設委員会の委員の交代と追加を提案し，審議の結果，承認が得られた。

・大会委員会

高田輝子委員，矢野恵佑委員より藤井孝之委員，松本智恵子委員に交代。佐藤忠彦委員を追加し，副委員長に任ずる。（2024年3月27日付）

・企画・行事委員会

佐藤忠彦委員を副委員長に任ずる。（2024年3月27日

付）

・ISI 東京大会記念基金運営委員会

北田裕幸委員，清水誠委員，山下智志委員より會田雅人委員，菅澤翔之助委員，樋口知之委員に交代し，樋口知之委員を委員長に任ずる。（2024年3月27日付）

第2議案 常設委員会における委員の再任について

川崎理事長より，資料に基づき，常設委員会の委員の再任を提案し，審議の結果，承認が得られた。

・ISI 東京大会記念基金運営委員会

川崎茂委員，西郷浩委員，宿久洋委員，吉田朋広委員を再任（2024年3月27日付）

その他

・川崎理事長より，第18回日本統計学会春季集会について報告がなされた。

・川崎理事長より，科研費研究成果公開促進費（国際情報発信強化）に申請していた課題が採択された旨，報告がなされた。

11. 理事会・委員会報告（2024年5月11日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2024年5月11日（土曜日）

午後1時00分～午後2時05分

場所：東京理科大学経営学部 5階会議室

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティング ID: 897 9426 9071）

理事の総数 14名 出席理事の数 13名

監事の総数 3名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：照井伸彦会長，川崎能典理事長，小山慎介（庶務），伴正隆（庶務），吉田靖（会計），増田弘毅（JJSD），原尚幸（会誌編集和文），小西葉子（広報），荒木由布子（国際），鎌谷研吾（国際），瀬尾隆（渉外），植木優夫（渉外），竹内光悦（教育）

（以上13名，括弧内は役割分担）

監事：大森裕浩，樋口知之

第1議案 2023年度事業報告について

川崎理事長より，資料に基づき，2023年度事業の報告があり，審議の結果これを承認し，社員総会に諮ることとした。

第2議案 2023年度決算報告について

川崎理事長より，資料に基づき，2023年度決算について報告があり，吉田会計理事により追加の説明がなされた。審議の結果これを承認し，社員総会に諮ることとした。

第3議案 監査報告について

大森監事，樋口監事より，2023年度事業報告および決算の監査結果について報告があり，審議の結果これを承認し，社員総会に報告することとした。

第4議案 常設委員会における委員長・委員の交代・退任について

川崎理事長より，資料に基づき，常設委員会の委員長・委員の交代・退任について提案があり，審議の結果これを承認し，社員総会に諮ることとした。

・庶務委員会

小山慎介委員長より伴正隆委員長に交代（2024年6月1日付）

小山慎介委員より坂田綾香委員に交代（2024年6月1日付）

吉田靖委員より白石博委員に交代（2024年6月1日付）

・国際関係委員会

荒木由布子委員長より鎌谷研吾委員長に交代（2024年6月1日付）

荒木由布子委員より江村剛志委員に交代（2024年6月1日付）

・大会委員会

高部勲委員長より佐藤忠彦委員長に交代（2024年6月1日付）

高部勲委員は退任（2024年6月1日付）

・企画・行事委員会

高部勲委員長より佐藤忠彦委員長に交代（2024年6月1日付）

高部勲委員より尾崎幸謙委員に交代（2024年6月1日付）

白川清美委員より領家美奈委員に交代（2024年6月1日付）

玉谷充委員より伴正隆委員に交代（2024年6月1日付）

第5議案 2025年度学会賞各賞の選考委員について

照井会長より、会長が推薦する中村隆英賞の選考委員として、會田雅人会員、舟岡史雄会員、美添泰人会員を再任することが提案され、審議の結果、承認された。また、中村隆英賞を除く各賞については、6月1日の社員総会において駒本文保会員及び小暮厚之会員を提案し、審議する予定である旨、報告された。

第6議案 日本統計学会小川研究奨励賞規程の改正について

川崎理事長より、資料に基づき、日本統計学会小川研究奨励賞規程の改正について以下のとおり提案がなされ、審議の結果、これを承認し社員総会に諮ることとした。

第2条3について、

授賞対象は、原則として毎年1名とし、過去もしくは当該年度において「日本統計学会研究業績賞」

の授賞対象となった論文は対象としない。

を

授賞の対象となる者は若干名とし、過去もしくは当該年度における「日本統計学会研究業績賞」の受賞者は対象としない。

とする。

第7議案 会員の入退会

川崎理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者の紹介がなされ、審議の結果、承認が得られた。

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2024年 5月11日（土曜日）

午後2時5分～午後3時42分

場所：東京理科大学経営学部 5階会議室

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施
Zoom（ミーティングID: 897 9426 9071）

出席：理事13名、監事2名、委員1名、計16名

照井伸彦会長、川崎能典理事長、小山慎介、伴正隆、吉田靖、増田弘毅、原尚幸、小西葉子、荒木由布子、鎌谷研吾、瀬尾隆、植木優夫、竹内光悦、大森裕浩（監事）、樋口知之（監事）、佐藤忠彦（大会、企画・行事）

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

増田委員長より、JJSDの編集状況について報告がなされた。

2. 和文誌編集委員会

原委員長より、和文誌の編集状況について報告がなされた。

3. 大会委員会

川崎理事長より、資料に基づき、2024年度および2025年度統計関連学会連合大会について報告がなされた。

4. 企画・行事委員会

川崎理事長より、資料に基づき、第18回および第19回春季集会について報告がなされた。

5. 庶務委員会

小山委員長より、資料に基づき、一般財団法人日本科学技術連盟の賛助会員入会について、以下にある3件の後援承諾について報告がなされた。

後援承諾について：

・第7回統計データ分析コンペティション

総務省統計局，独立行政法人統計センター，大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所及び一般財団法人日本統計協会の共催

・第18回データビジネス創造コンテスト

～ Digital Innovators Grand Prix 18 (DIG18) ～

主催：慶應義塾大学 SFC 研究所 データビジネス創造コンソーシアム

・第72回統計グラフ全国コンクール

主催：公益財団法人 統計情報研究開発センター

6. 広報委員会

小西委員長より，会報の発刊等に関する活動報告がなされた。

7. 国際関係委員会

荒木委員長より，国立台湾大学で2024年12月13日と14日に開催される国際会議において，台湾日本韓国による3か国共同セッションが開催予定である旨，報告がなされた。

8. 渉外委員会

植木委員長より，令和5年度 JSSD 科研費での支払い先について，また，資料に基づき，令和6年度 JSSD 科研費について報告がなされた。

9. 質保証委員会

瀬尾委員長より，統計質保証推進協会の活動につい

て，第70回統計検定運営委員会の内容を中心に報告がなされた。

10. 統計教育委員会

竹内委員長より，資料に基づき，理数系学会教育問題連絡会への学会としての参加等，活動報告がなされた。

11. ISI 東京大会記念基金運営委員会

樋口委員長より，資料に基づき，ISI 東京大会基金奨励賞など基金の活用実績と，第4回 ISI 東京大会記念奨励賞の募集について報告がなされた。

12. その他

川崎理事長より，資料に基づき，以下3点の報告がなされた。

- ・統計関連学会連合の法人化検討状況について
- ・科研費交付終了後の資金支援スキームについて
- ・統計教員養成に関する文部科学大臣への要望について

<審議事項>

審議事項なし

今後の予定

2024年 6月 1日 (土) 午後1:30

定時社員総会：東京理科大学経営学部 5階会議室
(オンライン参加も可能)

12. 社員総会報告 (2024年6月1日開催)

一般社団法人 日本統計学会 社員総会

日時：2024年6月1日 (土曜日)

午後1時30分～午後2時59分

場所：東京理科大学経営学部 5階会議室

ハイブリッド出席型バーチャル社員総会として実施

Zoom (ミーティング ID: 864 3341 9265)

出席者：照井伸彦会長，川崎能典理事長

出席代議員：會田雅人，青嶋誠，足立浩平，大森裕浩，加藤昇吾，鎌倉稔成，川崎茂，川崎能典，川野秀一，西郷浩，清水誠，瀬尾隆，田畑耕治，富澤貞男，樋口知之，廣瀬慧，南和宏，南美穂子，山下智志 (以上，委任状提出9名を含み出席28名，議決権行使書4名)

オブザーバー：小山慎介 (庶務)，伴正隆 (庶務)，吉

田靖 (会計)，竹内光悦 (教育)，白石博 (次期会計)

冒頭，照井会長より定足数を満たしていることを確認ののち，開会宣言がなされ，オブザーバー5名の出席が承認された。照井会長より，議事録署名人として西郷浩，瀬尾隆両代議員に依頼する旨説明があり，承認された。

審議事項

第1議案 2023年度事業報告及び決算に関する件

照井会長より，資料に基づき，2023年度事業と決算について報告があり，オブザーバーの吉田会計理事より追加の説明がなされた。また，大森監事，樋口監事，

山下監事により「適切に執行された」との監査報告がなされ、審議の結果、承認された。

第2議案 名誉会員に関する件

照井会長より、廣津千尋氏（東京大学名誉教授、元明星大学教授）、矢島美寛氏（東京大学名誉教授）を名誉会員とすることについて提案がなされ、承認された。

第3議案 日本統計学会小川研究奨励賞規程の改正に関する件

照井会長より、資料に基づき、日本統計学会小川研究奨励賞規程の改正について提案がなされ、審議の結果、承認された。

第4議案 学会賞各賞の選考委員の承認に関する件

照井会長より、2025年度の学会賞各賞（中村隆英賞を除く）の規程に基づく「会長が推薦する選考委員」として駒木文保会員および小暮厚之会員を推薦することが提案され、審議の結果、承認された。

第5議案 理事の選任に関する件

照井会長より、以下のとおり理事の選任に関する提案がなされ、審議の結果、承認された。

理事（小山慎介、吉田靖、荒木由布子）が本社員総会の終結と同時に任期満了し、退任することになり、その改選の必要があるため、以下のように後任の理事を選任する（2024年6月1日付）。

理事 坂田綾香、白石博、江村剛志

また、高部勲理事が本社員総会の終結と同時に一身上の都合で退任することに伴い、その補充の必要があるため、以下のように後任の理事を選任する（2024年6月1日付）。

理事 佐藤忠彦

報告事項（理事会報告）

1. 一般財団法人日本科学技術連盟の賛助会員入会について

川崎理事長より、資料に基づき、本年度から一般財団法人日本科学技術連盟の賛助会員に入会したこと、また本学会員への周知を行う予定であることが報告された。

2. 会員の入退会

川崎理事長より、回収資料に基づき、会員の入退会について報告がなされた。

3. その他

なし

報告事項（委員会報告）

1. 常設委員会における委員長・委員の交代・退任について

川崎理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員長および委員の交代・退任について報告がなされた。

・庶務委員会

小山慎介委員長より伴正隆委員長に交代（2024年6月1日付）

小山慎介委員より坂田綾香委員に交代（2024年6月1日付）

吉田靖委員より白石博委員に交代（2024年6月1日付）

・国際関係委員会

荒木由布子委員長より鎌谷研吾委員長に交代（2024年6月1日付）

荒木由布子委員より江村剛志委員に交代（2024年6月1日付）

・大会委員会

高部勲委員長より佐藤忠彦委員長に交代（2024年6月1日付）

高部勲委員は退任（2024年6月1日付）

・企画・行事委員会

高部勲委員長より佐藤忠彦委員長に交代（2024年6月1日付）

高部勲委員より尾崎幸謙委員に交代（2024年6月1日付）

白川清美委員より領家美奈委員に交代（2024年6月1日付）

玉谷充委員より伴正隆委員に交代（2024年6月1日付）

2. 2024年度統計関連学会連合大会について

川崎理事長より、2024年度統計関連学会連合大会が、2024年9月1日（日）～5日（木）に、東京理科大学神楽坂キャンパスにて、現地および遠隔（オンライン）によるハイブリッド方式で開催予定であることが報告さ

れた。

3. 第18回春季集会（2024年3月開催）の報告

川崎理事長より、2024年3月9日（土）に成城大学にて開催された第18回日本統計学会春季集会について報告がなされた。

4. 日本統計学会各賞受賞者の紹介

照井会長より、資料に基づき、日本統計学会各賞の受賞者について紹介がなされた。

5. ISI 基金奨励賞 第4回 ISI 東京大会記念奨励賞 募集について

樋口委員長（ISI 東京大会記念基金運営委員会）より、資料に基づき、ISI 基金奨励賞及び第4回 ISI 東京大会記念奨励賞の募集について説明がなされた。

6. その他

なし

報告事項（その他）

1. 各種委員会からの報告

竹内委員長より統計教育委員会の活動について、南委員長より多様性推進特別委員会の活動について、それぞれ資料に基づき、報告がなされた。

2. 次回日程等

役員・代議員協議会：2024年9月1日（日）午後6:30～午後8:00（予定）

3. その他

（1）川崎理事長より、統計関連学会連合の法人化検討状況について、資料に基づき、説明がなされた。

（2）統計教員養成に関する文部科学大臣への要望について

川崎理事長より、資料に基づき、統計教員養成に関する文部科学大臣への要望について説明がなされた。

2023 年度事業報告

(2023.4.1～2024.3.31)

学会の動向

日本統計学会は、一般社団法人として13年目を迎え、2年周期の学会事業の7期目の初年度を終えることになる。運営の経験を蓄積したことを生かして、照井伸彦会長、川崎能典理事長を含む14名の理事と3名の監事、および各種委員会における委員により、各種事業を着実に実施した。科学研究費「国際情報発信強化(B)」により、Japanese Journal of Statistics and Data Science の発行と国際セッションの実施が強化され、国際的な活動にも大きく貢献した年度であった。

2024年2月17日現在の会員の数は1,466(名誉会員12,正会員1,379,準会員8,学生会員67)、これに加えて賛助会員17法人、団体会員8団体がいる。

I. 出版編集事業

1. 和文誌の発行

和文誌2号(第53巻シリーズJ第1号(2023年9月)、第53巻シリーズJ第2号(2024年3月))を発行した。内訳は原著論文2編、受賞者特別寄稿論文7編、特集論文6編、会長就任講演、全372ページであった。

2. Japanese Journal of Statistics and Data Science 編集の支援

Japanese Journal of Statistics and Data Science 第6巻 (Issue 1, Issue2: 原著論文35編; 全901ページ)の発行に協力した。また、科学研究費助成事業「研究成果公開促進費「国際情報発信強化(B)」の採択により資金面で貢献ができた(なお、本科研費は国際的活動資金としても利用されている)。

3. 会報の発行

No.195(4月)、No.196(7月)、No.197(10月)、No.198(1月)を発行した。

4. JSS Research Series in Statistics シリーズ(英文)の出版

昨年度に引き続き、JSS Research Series in Statistics シリーズの出版を行った。2023年度は4冊(2024年3月現在)が出版され、2023年度以前に出版されたものを含めると全40冊が出版済である。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第90回大会の開催

2023年9月3日(日)～7日(木)、京都大学にて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で、2023年度統計関連学会連合大会の一環として開催した。プレナリーセッションを行い、また、企画セッションとして、日本統計学会会長講演、日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式)を行った。

2. 春季集会の開催

2024年3月9日(土)に第18回春季集会成为城大学にて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催された。参加者は217名(現地166名、オンライン51名)であった。

3. 研究分科会の活動

以下の分科会が活動を行った。

「統計教育分科会」(竹内光悦主査:2010年12月発足、2027年3月終了予定)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(末石直也主査:2010年12月発足、2027年3月終了予定)

「女性統計家・データサイエンティスト育成分科会」(渡辺美智子主査:2019年4月発足、2027年3月終了予定)

「スポンサーデータサイエンス分科会」(酒折文武主査:2021年6月発足、2025年5月終了予定)

4. 国際会議への協力

2023年6月29日(木)～7月1日(土)、韓国釜山にて開催された韓国統計学会・日本統計学会・台湾統計学会共同開催の国際セッション4件

KSS-JSS-CSA Joint session I: Statistical Computing

KSS-JSS-CSA Joint session II: High dimensional statistics and their applications

KSS-JSS-CSA Joint session III: Statistics for complex data

KSS-JSS-CIPS Joint session IV: Young Researchers

の開催に協力した。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため、以下の賞を授与した。

第28回日本統計学会賞: 柿沢 佳秀、富澤 貞男

第3回日本統計学会中村隆英賞: 原田 泰、安田 聖

第19回日本統計学会統計活動賞: 情報・システム研究機構 統計数理研究所

第19回日本統計学会統計教育賞: 都丸 希和、

香川県立観音寺第一高等学校 FESTAT

第17回日本統計学会研究業績賞: 奥井 亮、青木 敏

第37回日本統計学会小川研究奨励賞: 明石 郁哉、松田 孟留

第3回 ISI 東京大会記念奨励賞: 助田 一晟、若山 智哉、武石 将大、岡部 格明、
柚木 慎太郎

2. 各種委員会の活動

社員総会 (2023年5月27日) および社員懇談会 (2024年3月8日)を開催した。
理事会 (2023年5月27日、7月1日、10月6日、2024年2月17日、3月27日)を

開催した。

春季集会に関係する理事監事および委員で構成される春季集会準備会合(2023年11月17日)を開催した。

役員・代議員協議会(2023年9月3日)を開催した。

その他の各種委員会を適宜、開催した。

3. 広報活動の充実

メールマガジンの使用やウェブサイトの充実により、各種情報発信を促進した。

日本統計学会公式 YouTube チャンネルを通じて、2023 年度統計関連学会連合大会の企画セッションとして実施された日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式)の模様を会員向けに配信した。

4. 入会者の拡大

若手研究者の入会を促進した。

IV. 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施協力

日本統計学会が認定団体となっている「統計検定」が、紙媒体(2023年11月19日)および CBT の画方式で、一般財団法人統計質保証推進協会により実施された。

2. MOOC による統計学講座の提供

MOOC のプラットフォーム gacco において、「統計学 I：データ分析の基礎」、「統計学 II：推測統計の方法」および「統計学 III：多変量データ解析法」を開講した。

3. 統計教育関連事業の推進

2023 年度統計関連学会連合大会にて「AI・デジタル時代に向かう統計・データサイエンス教育方法論の新展開」と題した企画セッションを実施した。

「第 21 回 統計・データサイエンス教育の方法論ワークショップ」を 2024 年 3 月 2 日(土)～3 日(日)に日本統計学会統計教育分科会、情報・システム研究機構統計数理研究所と連携し主催した。本ワークショップ内で日本統計学会統計教育賞受賞者講演も行った。

「中高生・スポーツ・データ解析コンペティション2023-1」を日本統計学会スポーツデータサイエンス分科会、同統計教育分科会と連携し、主催した。166 チームの参加(最終の課題提出は 150 チーム)があり、審査・授賞を行った。

2024 年 2 月 18 日(日)に開催された「全国中高生 AI・DS 探究コンペティション 2023」を協賛し、広報協力、審査員の派遣、学会名を関する賞の授与を行なった。

2024 年 3 月 23 日(土)～24 日(日)に対面開催された「理数系教員統計・データサイエンス授業力向上研修集会(宮城)」を共催した。

そのほか、関連情報や関連のイベント等をメールマガジンやウェブサイトを利用して告知し、理数系学会教育問題連絡会への参加、統計教育関連コンテンツの開発・公開を行った。

V. その他

1. 細谷賞の後援

東北大学大学院経済学研究科が創設した細谷賞を後援した。

第 5 回細谷賞：植松 良公

2. 学会誌冊子体配付方法の変更

日本統計学会誌冊子体の希望者のみへの送付を 53 巻 1 号より開始した。

一般社団法人 日本統計学会 2023年度 決算書(通称ページ)						(2024年3月31日現在) (単位:円)	
貸借対照表		借 方		貸 方			
科 目		期 首	期 末	期 首	期 末		
I資産の部							
設備費		23,894,802	29,707,903	0	0		0
流動資産合計		23,894,802	29,707,903	0	0		0
学友活動積立金		3,503,961	0				0
60周年記念基金		510,434	216,278				
75周年記念基金		1,418,419	1,418,431				169,515,812
ISI基金		34,459,055	32,727,905		171,425,466		
IOP基金		11,278,853	11,278,949		0		0
小川基金		2,571,733	2,464,561				
中村隆英賞基金		93,788,209	91,701,785				
特定資産合計		147,530,664	139,807,909		147,530,664		139,807,909
固定資産合計		147,530,664	139,807,909				
資産合計		147,530,664	139,807,909		171,425,466		169,515,812
					171,425,466		169,515,812

(注) ISI基金はISI東京大会記念事業基金
IOP基金はIOPセミナーフォローアップ事業基金

監査報告書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の 2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類(正味財産増減計算書、貸借対照表) について検討いたしました。

監査の結果

- (1) 事業報告等の監査結果
- 一、事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。
 - 二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (2) 計算書類の監査結果
- 計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2024 年 4 月 25 日

一般社団法人日本統計学会

監事

大森裕浩

監事

樋口知之

監事

山下智志

特定資産の増減及びその残高は次のとおりである
(2024年3月31日現在)
(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	摘 要
学友活動積立金	3,503,961	4	3,503,965	0	増加額は預金利息、積立金として管理取り崩した。
60周年記念基金	510,434	3	294,159	216,278	増加額は預金利息、減少額は学友賞(選時計、大会参加費)、振込手数料等。
75周年記念基金	1,418,419	12	0	1,418,431	増加額は預金利息。
ISI東京大会記念事業基金	34,459,055	284	1,731,434	32,727,905	増加額は預金利息、減少額は賞金、事務局業務委託費、振込手数料等。
IOPセミナーフォローアップ事業基金	11,278,853	96	0	11,278,949	増加額は預金利息。
小川基金	2,571,733	22	107,194	2,464,561	増加額は預金利息、減少額は副賞等。
中村隆英賞基金	93,788,209	784	2,087,208	91,701,785	増加額は預金利息、減少額は賞金、事務局業務委託費、振込手数料等。
合 計	147,530,664	1,205	7,723,960	139,807,909	

附属明細書

貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書は財務諸表の注記に記載している。

13. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を紹介いたします。

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に掲載いたします。

博士論文

● (1) 菊池元太 (2) 博士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) Toward Discovering Causal Relations from Manufacturing Data: Heteroscedasticity and Variable Groups (5) 清水昌平 (6) 2024年 3月

● (1) 花田圭佑 (2) 博士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) ランダム効果メタアナリシスの推測と正確分析 (5) 杉本知之 (6) 2024年 3月

修士論文

● (1) 石田希望 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) CodeBERTを用いたプログラムコード検証 (5) 市川治 (6) 2024年 3月

● (1) 上野義博 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 顧客属性と行動に基づくデジタル通帳利用の分析とマーケティング戦略の策定 (5) 田中琢真 (6) 2024年 3月

● (1) 上羽悠介 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 熟練工の知見に基づいた深層学習による鍛造製品の欠陥検出 (5) 飯山将晃 (6) 2024年 3月

● (1) 内田巧 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 否定を含む推論データセットの構築とそれを用いた自然言語理解の研究 (5) 南條浩輝 (6) 2024年 3月

● (1) 内山直之 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 雑損控除の適用における「損失額の合理的な計算方法」の適合性について (5) 笛田薫 (6) 2024年 3月

● (1) 江上昇 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 自治体E B P Mの推進に向けた定量的

な現状分析と提案—全国調査の結果から見る現状分析と課題解決に向けた考察から— (5) 佐藤正昭 (6) 2024年 3月

● (1) 大路悠介 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) SfMによる推定深度の正誤予測 (5) 佐藤智和 (6) 2024年 3月

● (1) 小島和輝 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) Iterative Inpainting Augmentationによる不十分なアノテーションからのインスタンスセグメンテーション (5) 飯山将晃 (6) 2024年 3月

● (1) 小畑諒人 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 経時測定データに対する決定木分析モデルの構築とその応用 (5) 杉本知之 (6) 2024年 3月

● (1) 嘉悦里奈子 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 高速鉄道における空調負荷の要因分析 (5) 寺口俊介 (6) 2024年 3月

● (1) 加藤駿典 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) スパースな観測行列を用いた圧縮センシングによる差分プライバシーの実現 (5) 松井秀俊 (6) 2024年 3月

● (1) 亀岡真毅 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) コールセンターオペレーターの感情認識におけるマルチモーダル学習と多言語基盤の効果 (5) 市川治 (6) 2024年 3月

● (1) 川上耕平 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) ガウス過程回帰に基づくヘアカラー剤組成の効率的探索 (5) 岩山幸治 (6) 2024年 3月

● (1) 川崎隆広 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 金融機関間の送金額予測の機械学習による精緻化 (5) 田中琢真 (6) 2024年 3月

● (1) 川俣統吾 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 信号パターン分析に基づく交差点改善手法 (5) 川井明 (6) 2024年 3月

● (1) 北村智浩 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 粒子径分布を出力とする粉碎機の実

験計画へのMulti Output Gaussian Process回帰を用いたベイズ最適化の応用 (5)河本薫 (6)2024年3月

●(1)小谷朋也 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)二段階ベイズ推定を用いた自動車補修部品の受注数予測 (5)姫野哲人 (6)2024年3月

●(1)相良健太郎 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)認知診断モデルを用いた学力の規定要因についての考察－兵庫県尼崎市のデータを題材に－ (5)奥村太一 (6)2024年3月

●(1)里村信行 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)地域視点による少子化分析－婚姻動向、夫婦の出生力に関する要因分析および少子化関連指標値による地域対策の考察－ (5)佐藤正昭 (6)2024年3月

●(1)嶋倉大吾 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)積極型離反顧客管理に向けた部分離反顧客予測及び部分離反顧客属性分析 (5)清水昌平 (6)2024年3月

●(1)島津佑汰 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)欠測を含むデータに対する多重代入法に基づく非線形モデルの変数選択 (5)松井秀俊 (6)2024年3月

●(1)高三和己 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)Fishing Ground Estimation through Weakly Supervised Keypoint Detection and Meta-Learning (5)飯山将晃 (6)2024年3月

●(1)高瀬壮彦 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)授業内の音声イベント検知に基づく授業活性度の推定 (5)市川治 (6)2024年3月

●(1)高橋大輔 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)反事実の確率を用いた機械学習の説明性に因果構造が与える影響の分析 (5)清水昌平 (6)2024年3月

●(1)武田隼貴 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)問題文の類似度を用いた類似項目デザインによる等化の試み (5)奥村太一 (6)2024年3月

●(1)田附玲王 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)運転者の嗜好を考慮した遺伝的アル

ゴリズムによる走行経路案内システム (5)川井明 (6)2024年3月

●(1)塚本康太郎 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)変数の拡張に対する最適輸送に基づくドメイン適応における変数選択 (5)松井秀俊 (6)2024年3月

●(1)中谷太洋 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)コロナ禍における宿泊飲食業の雇用調整の分析と未来投資に基づく再興・発展の提案 (5)杉本知之 (6)2024年3月

●(1)林孝太郎 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)ソーシャルVRにおけるジェンダースイッチング動機と要因に関する分析 (5)伊達平和 (6)2024年3月

●(1)福留賢 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)ラベル付与に選択バイアスのある不均衡データに対するPU学習 (5)松井秀俊 (6)2024年3月

●(1)藤田佳樹 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)メカニカルシール摺動面の画像特徴量を用いた機械的特性の予測 (5)村松千左子 (6)2024年3月

●(1)松久恵子 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)東日本大震災前後における経営者特性が企業行動に与える影響についての分析 (5)笛田薫 (6)2024年3月

●(1)松本和真 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)画像群からの三次元復元における物体認識を用いたスケールドリフト量の推定 (5)佐藤智和 (6)2024年3月

●(1)水谷宏太 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)敵対的学習に基づくドメイン不変表現の獲得とそれを用いたアスペクトベース感情分析 (5)南條浩輝 (6)2024年3月

●(1)水本了太 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)外れ値に頑強なセミパラメトリック回帰モデルとその応用 (5)佐藤健一 (6)2024年3月

●(1)三谷治 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)スマート農業活用に向けたHTTモデル

のベイズ推定に基づく種子発芽予測 (5) 岩山幸治 (6) 2024年 3 月

● (1) 山口紗季 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 購買POSデータに基づく近年の物価上昇が消費行動に与える影響の評価 (5) 藤井孝之 (6) 2024年 3 月

● (1) 山口ダウード (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 線形ガウス状態空間モデルに基づく時系列クラスタリング法と従来手法との需要予測における精度比較 (5) 河本薫 (6) 2024年 3 月

● (1) 山田祐也 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) テレビ番組の放送内容テキストを用いた視聴者属性別の視聴傾向の分析 (5) 南條浩輝 (6) 2024年 3 月

● (1) 吉野航 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) ESGデータを用いた企業の不祥事リスクの評価 (5) 笛田薫 (6) 2024年 3 月

● (1) 下野倫治 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 株価の中期変動予想による収益最大化 (5) 笛田薫 (6) 2024年 3 月

● (1) 山本りえ (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) LiNGAMを用いた働きがいと成果の因果関係の検証 (5) 姫野哲人 (6) 2024年 3 月

● (1) 海老澤優 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学

(4) Cauchy Diffusion Modelによる画像生成 (5) 小林景 (6) 2024年 3 月

● (1) 加納光 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) ヴェインコピュラによる市場リスクの解析と個人資産のリスク管理 (5) 南美穂子 (6) 2024年 3 月

● (1) 鴨志田陸 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 行列式点過程によるグラフ生成モデリング (5) 小林景 (6) 2024年 3 月

● (1) 木内希 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) HawkesグラフによりパラメトライズされたMarkov Regime-Switching計数時系列に対する統計的推定 (5) 白石博 (6) 2024年 3 月

● (1) 風呂井啓人 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) データの因果構造に着目したShapley値によるExplainable AIの改善 (5) 小林景 (6) 2024年 3 月

● (1) 竹ノ谷洸太郎 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) FEAWADモデルを用いた電池データの異常検出 (5) 林賢一 (6) 2024年 3 月

● (1) 三宅佑果 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) Prognostic covariate adjustment in multi-arm randomized controlled trials in the presence of historical data (5) 林賢一 (6) 2024年 3 月

14. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2024年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。(<https://www.jss.gr.jp/fec/>).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

入会承認

相田航, 大橋真也, 大矢智則, 小野洋平, 葛城大介, 河合玲一郎, 佐川凜華, 鈴木俊太郎, 高原健, 田川颯人, 谷本真佑, 手塚大樹, 寺西蓮, 長尾伸一, 西脇優斗, 二宮夢理, 羽田哲也, 濱田充男, 林宏樹, 藤原一肇, 松本知己, 室屋秀平, YAO SAI, 吉田悠夏 (敬称略)

退会承認

赤澤宏平, 跡田直澄, 井垣竹晴, 石曾根毅, 江島伸興, 大城亘武, 小田滋晃, 小野智憲, 熊谷亘, 合田智一, 小山良, 櫻庭千尋, 柴田慎一, 下野祐太, 杉田勝弘, 中川香織, 長澤克重, 中瀬卓也, 早川知志, 福井武弘, 町田光陽, 横田彰, 李笑, 渡邊宏大, データビズラボ株式会社 (敬称略)

長期連絡不能により退会したとみなされた会員
石原健一, 大橋淳史, 大淵智勝, 小川芳幸, Guimaraes GONCALVES Danilo, 木室孝輔, 慶野有輝, 高平, 佐藤倫治, 新里隆, 高梨耕作, 高橋由武, 千葉航平, 内藤宏明, 中北誠, 畠山彰文, 坂東拓馬, 方雪敏, 松村光子, 南賢太郎, 吉永耕介, 陸超, Robert Clark, 綿島正剛, 渡邊知史 (敬称略)

現在の会員数 (2024年6月1日)

名誉会員	13名
正会員	1,342名
準会員	6名
学生会員	54名
総計	1,415名
賛助会員	17法人
団体会員	6団体

15. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの, 会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。
- 博士論文・修士論文の紹介
(1)氏名 (2)学位の名称 (3)取得大学 (4)論文題名 (5)主査または指導教員 (6)取得年月をお知らせください。
- 求人案内 (教員公募など)
- 研究集会案内
- 新刊紹介
著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし, 主観的な表現は避けてください。
- 会員活動紹介 (叙勲・受章, 各種受賞等)
できるだけe-mailによる投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先:

〒100-8901

東京都千代田区霞が関1丁目3番1号
経済産業省別館11階

独立行政法人経済産業研究所 小西 葉子 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会連合ホームページ URL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL:
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp